森

森に緑を、住まいに木を

森に緑を、住まいに木を

特定非営利活動法人
木の家だいすきの会

すぎんこプロジェクト

2008 年全労済地域貢献助成事業活動報告

http://www.kinoie.org　　mail　office@kinoie.org
NPO法人木の家だいすきの会事務局
東京事務所　03-5261-0951　所沢事務所　04-2926-6045

森に緑を、住まいに木を

特定非営利活動法人
木の家だいすきの会
代表理事　鈴木　進

海外においては不法森林伐採によって森林の破壊が進んでいます。日本の場合はこれとは逆に、木が伐られないことで森林の破壊が進んでいます。実は、これら二つの森林破壊は表裏一体をなすものなのです。日本の森林の多くを占める人工林は、人の手が入って初めて保全されます。輸入材に頼り国産材が使われなくなり、その結果として林業従事者数が激減したため、手入れの行き届かない病んだ森林が増加しています。本会では、「森に緑を、住まいに木を」を理念として、日本の木を使った家づくりを推進することで、日本の森の保全を図る活動を展開しています。

これまで、東京都の多摩地域、埼玉県の西川林業地、ときがわ地域等の奥武蔵の森の木を使った家づくりを普及させるため、伐採見学会、製材所見学会、各種セミナー、現場見学会などを実施しており、平成 19 年度実績で本会が主催するイベントの開催回数は年間約 50 回（ほぼ毎週開催）に達します。また、埼玉県が主催する農林フェスタその他の地産地消のキャンペーンに参加。NPO 埼玉県地球温暖化防止活動推進センターが主催する研究会講師やキャンペーンへの参加などを通じて地球温暖化防止への活動を行っています。このほか、「都市と森の共生」をテーマとしたシンポジウムやセミナーの開催を通じて森林ボランティア団体、まちづくり団体との連携を深めています。こうした活動は、朝日新聞、日本経済新聞、NHK、ヘラルドトリビューンなどのマスコミにも数多くとりあげられ、平成 20 年 2 月には、林野庁が進める「3.9 木づかい運動」の感謝状を授与さまました。

今回新たにスタートしたすぎんこプロジェクトは、市民活動支援事業の柱の一つとして今後継続的に進めていきたいと考えています。平成 20 年度は全労済地域貢献助成事業の支援を受けて実施することができました。この場を借りて感謝の意を表したいと存じます。

特定非営利活動法人木の家だいすきの会
代表理事　鈴　木　　進

すぎんこプロジェクトの概要

全労済地域貢献助成事業＜環境分野＞

◇活動の背景と目的

森林資源は成長する範囲で大事に使えば、循環的な利用が可能な資源です。すぎんこプロジェクトは、次代を担う子ども達が、本物の生きた自然素材に触れることで、木の良さを知る機会とするとともに、木を大事に使うことの大切さを学ぶ機会としたいと考えています。

また、親（特に触れ合う機会の少ない父親）と子どもが参加して、地域の森の木を使って子供たちの生活の場である学童施設の環境改善を図ります。親子が協力することで、親子のふれあいや親同士のコミュニケーションの促進を図る機会となれば幸いです。

◇事前準備

平成 19 年 4 月～12 月：市民活動支援事業に関する構想の検討
平成 20 年 1 月：すぎんこプロジェクトの企画について本会幹事会承認
平成 20 年 2 月：NPO 所沢学童クラブ事務局に打診、モニターとなる児童クラブの募集への協力可能の回答
平成 20 年 3 月：埼玉県木材利用推進室に協力依頼、協力可能の回答
平成 20 年 4 月：所沢市並木児童クラブ、松井児童クラブ訪問説明
平成 20 年 4 月：２児童クラブ父母会にてプロジェクト参加の正式決定
平成 20 年 4 月：所沢市青少年課との事前協議、検討する旨の回答
平成 20 年 5 月：所沢市と本会の間で“すぎんこプロジェクト「森に緑を、住まいに木を」の実施に関する覚書」の交換
平成 20 年 5 月：協同組合彩の森とき川との調整、実施計画の作成
平成 20 年 5 月：全労済地域貢献助成事業に応募
平成 20 年７月：同採択

◇実施概要

●対象

埼玉県所沢市松井児童クラブの親子、所沢市並木学童クラブの親子

●実施体制

主催：特定非営利活動法人木の家だいすきの会

共催：協同組合彩の森とき川

後援：埼玉県、埼玉県ときがわ町

●埼玉県ときがわ町の森での植林・間伐等の森林保全活動

◇所沢市松井児童クラブ

・日　時：平成 20 年 6 月 8 日(土)10：00～15：00

・場　所：埼玉県ときがわ町内の町有森内（埼玉県ときがわ町大字西平）

・参加者：38 名（児童クラブの親子 26 名、埼玉県 1 名、彩の森とき川 4 名、本会会員 7 名）

・内　容：広葉樹の植林、森と木の話し

◇所沢市並木児童クラブ

・日時：平成 20 年 9 月 27 日(土)10：00～15：00

・場所：埼玉県ときがわ町内の町有森内（埼玉県ときがわ町大字西平）

・参加者：31 名(児童クラブの親子 22 名、彩の森とき川 4 名、本会会員 5 名)

・内容：同年 6 月に植林した森の下草刈り、隣接する森林の間伐体験、森の話し

●学童施設の床張りワークショップ

◇所沢市松井児童クラブ

・日　時：平成 20 年 8 月 30 日(土)8：30～16：00

・場　所：所沢市松井児童クラブ(埼玉県所沢市上安松 407-2)

・参加者：37 名（児童クラブの親子 25 名、本会会員 12 名）

・内　容：無垢の杉材で学童施設の床を張るワークショップ

◇所沢市並木児童クラブ

・日　時：平成 20 年 11 月 15 日(土)8：30～16：00

・場　所：所沢市並木児童クラブ（埼玉県所沢市並木 6-2）

・参加者：29 名（児童クラブの親子 24 名、本会会員 5 名）

・内　容：無垢の杉材で学童施設の床を張るワークショップ

山に木を植えてきました

所沢市松井学童クラブ　平成 20 年 6 月 8 日

松井学童クラブの子どもたち１１名と、その親と指導員１５名、協同組合彩の森とき川から４名、木の家だいすきの会スタッフ７名、それに埼玉県庁から１名の総勢３８名で、山に木を植えてきました。

場所は、彩の森とき川貯木場に沿った斜面の町有林。説明後、さっそく作業に取りかかるのですが、その斜面は葛などの草が生い茂った斜面。それを見ただけで、学童クラブの親ごさんたちは滅入ってしまうか？と思ったのは私の杞憂でした。

●作業開始！

慣れた手つきで鎌を持ち、張り切って作業開始。
するとある子が「あっ、サワガニだっ！」
それを合図に、子どもたちは一斉に草を刈ったあとの斜面でサワガニ探しに夢中。鎌という刃物で、子どもたちが怪我をしないか心配していたスタッフにとって、サワガニはまさに救いの神でした。
草刈は予想を遥かに超えたスピードで、あっという間に終了。親御さんたちはいつも学童保育の庭の草刈で慣れているからとのこと、恐れ入りました。

草ぼうぼうの山、まず下草刈り

親子でミツバツツジを植林

●ミツバツツジを植林

さて次はいよいよ木を植えます。
樹種はミツバツツジ。紫ツツジともいう、ときがわ町の花に指定されているものです。広葉樹の森に再生するためです。
新緑の出る直前に咲くツツジで、ヤシオツツジと共に春を告げる可憐なツツジで、高さは山中では２ｍくらいですが、ここは開けた南斜面なので、３ｍを越す大きさになると思われます。苗木はまだ１ｍ弱。本数は２２本。
協同組合のスタッフから植え方を教わり、親子揃って山に木を植えます。
しかしここの土は石まじりで、掘るのが大変です。しかも斜面。
ここでも親子たちは我々の予想を超えていました。子どもたちもスコップを手に穴を掘ったり、バケツで水を運んだり大活躍。
予定時間を３０分も早く作業終了です。
植え終わった斜面で集合写真。全員揃って「ばんざ～い！」

●総括

今回のプロジェクトは、手探りの第一回目。
我々スタッフも予想がつきにくかったのですが、まずは大成功と言ってよいのではないでしょうか。いや、継続してこそ大成功の称号を付けられるのかもしれません。

文責：塩野輝之（NPO 木の家だいすきの会）

全員そろって植林の記念写真

下草刈りと間伐をしました

所沢市並木学童クラブ　平成 20 年 9 月 27 日

並木学童クラブの子どもたち１３名と、その親と指導員９名、協同組合彩の森とき川から４名、木の家だいすきの会スタッフ５名、総勢３１名で、下草刈りと間伐体験をしました。

場所は、６月に植林した山とそれに隣接する杉の森。いずれもときがわ町の町有森です。

●下草刈り

まず初めに、６月に松井学童クラブが植林した山の下草刈りにとりかかりました。

３ヶ月弱の間に、雑草は伸び放題。植林したミツバツツジは雑草に覆われて見分けがつきません。目印の杭を便りにミツバツツジを探しだし、印のリボンをつけました。

ミツバツツジを一緒に抜かないよう気をつけながら、下草刈り。小一時間ほどで、終了。植林をしたら、数年は毎年数回下草刈りをする必要があるとのこと。すぎんこプロジェクトも腰を据えて継続しなければ意味がありません。

雑草もなんのその

どれが植林した木かな？

サワガニ発見！

●間伐体験

下草刈りのあと、隣の森に入って間伐体験。

山の手入れや間伐の大切さ、50 年以上育てて始めて使える木になることなど、を彩の森とき川の松村さんから話しを聞いて、並木学童クラブの親子の皆さんも森づくりの大変さを、肌で感じた様子。

お話しのあと、実際に、子供たちも鋸を使って木の伐採に挑戦。倒れる瞬間の「バキバキ」という音の迫力に「おおっ!!」という驚きの声。

「木も生き物だな!」 倒れる瞬間は何か感じるものがあるようです。その実感が、木を大事に使おうという気持ちにつながると思います。

鋸の扱いに最初は四苦八苦していた子供たちもだんだんと慣れてきて、最初は躊躇していた子も、参加して、順番待ちの状況になっていました。

文責:鈴木進(NPO 木の家だいすきの会)

子供たちも伐採を体験

わっ！！　湿っている

森と木の話しを聞く

親子で床張りワークショップ１

所沢市松井学童クラブ　平成 20 年 8 月 31 日

６月に植林をした埼玉県ときがわ町の森で育った杉を使って、学童施設のフローリングだった床に無垢の厚３０mmの杉板を張るワークショップを実施しました。

参加者は松井学童クラブの子どもたち１２名と、その親と指導員１３名、木の家だいすきの会スタッフ１２名、総勢３７名で行いました。スタッフの大工や設計者の指導で学童クラブの親子で床張りをするという趣旨です。

今回が床張りワークショップの第１回目ということで、作業時間などもおおよそ見当をつけていますが、1 日で完了するかどうかも心配です。そのため、木の家だいすきの会のスタッフ体制としては、指導の講師となる工務店及び設計者にその他のスタッフも加え、１２名体制で臨みました。

●スクリュードライバーの使い方を指導

今回の床張りワークショップの指導は東成建設の平岡均さんに頼みました。平岡さんは６名の大工さんたちに声をかけて、本業の方は休業、この日は学童シフト体制。スクリュードライバーの使い方の指導は息子の平岡貴司さんが担当。

最初、何となく怖がっていた子供とたちもお父さんに助けられて始めると、すぐ慣れて一人でもできるようになります。スクリュードライバーは３台、早速、子どもたちの順番待ちの列ができます。

張る前ののフローリングの床

始めのうちはお父さんがサポート

●記念の絵を描き、職人技に思わず拍手

１日で終了しないのでは、という心配も杞憂に、子供たちの大活躍により午後２時ごろにはほぼ終了。誰かの、「記念に杉の板の裏にみんなで絵を描こう」という呼びかけに、全員が「それがいい」と、夢中で子供たちは絵を描きました。描き終わって記念写真をとり、それを床にとめ、素人の仕事はここまで。

最後の一列は、きちっと収めなければならないので、プロにバトンタッチ。大工さんたちがどのようにするのか興味津々で見守る中、さすがの職人技、隙間なく最後の一枚を収めたとき、職人仕事の素晴らしさに、おもわず拍手があがりました。

●ぬか袋で雑巾がけ

杉板を張り終わって、部屋の中は大変明るくなりました。杉の床板には米ぬかを入れたぬか袋で雑巾がけをして、全ての作業が終了しました。

文責：鈴木進（NPO 木の家だいすきの会）

記念に裏側に絵を描く

ぬか袋の雑巾がけ

みんなで記念撮影

親子で床張りワークショップ２

所沢市並木学童クラブ　平成 20 年 11 月 15 日

参加者は、子ども１０名を含む２４名。スタッフは木の家だいすきの会５名。指導の中心は大工棟梁の黒木肇さん。

●子どもたちはあきるどころか、ますます頑張る

自己紹介や道具の使い方、注意事項の話のあと、作業に取り掛かる。最初の作業は墨出しなどの下準備。これは素人は手が出せません。

子どもたちは、初めて手にするインパクトドライバーに興味津々。長さ６５ミリの木ネジを締めるので、ある程度力もいるしコツもあり、ドリルは空回りばかりでなかなかうまくできません。

面白いもので、腕力に頼る男の子より、小柄な女の子のほうが足腰の位置を自然に体得してコツを覚え、上達が速かったりします。

お母さんたちも子どもと一緒に頑張り、子どもたちは飽きるどころか益々頑張るので、お父さん方の出番は後回し。

子どもたちに木のことを話すと、「え～っ、節って枝なの！」とか、「じゃぁ年輪って、木の誕生日なんだねっ！」

そして年輪を１・２・３・４と数え始め、２０くらいで年輪の目が詰まってくるのを見て「人間と一緒だねっ！」これを聞いただけで、今日来た甲斐がありましたよ。

杉の無垢材を張る前のフローリングの床

黒木棟梁が墨出しなどの下準備

●午後も作業は順調。

板の裏側に、参加した子どもたちの名前を書こうとの発案に、色とりどりのサインペンで、名前だけでなく絵を書く子も。

子どもたちは板切れにも興味を示します。次にのこぎりクズを集め、小さなビニール袋に詰め始めました。そして「これもらっていいですか」「やったぁ！」板切れを欲しがるのはわかるけど、ノコギリくずはなぜだろうと思ったら、クワガタやカブトムシを飼うのだそうです。

ある子が幅広の板とマジックをもってきたて「これにサインしてください」。聞けば我々スタッフの名前入りのプレートを、今日の記念にするという。嬉しいですねぇ！

●さて作業は終盤

隅の板を張るのはプロの仕事。これがぴたっと納まった時は拍手が沸き起こりました。

今回の主役は子どもたち。次に親たち。だからスタッフは最少人数で臨みました。棟梁の動きは、フィルムの早回しのようでした。お茶休みもなしで、親子共フル稼働。すべての参加者が１２０％楽しく働けたと思います。

後から駆けつけたお母さんたちも含め、木の香りがいいとか明るくなったとか、足が温かいなど、好評でした。

『充実感』という言葉が似合う一日でした。

文責：塩野輝之（NPO 木の家だいすきの会）

子供たちはだんだん熱中

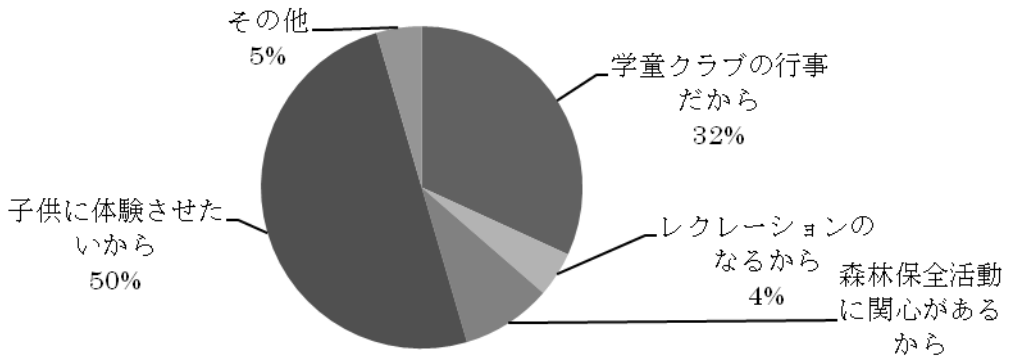
ワークショップ終了後、記念写真

アンケート調査

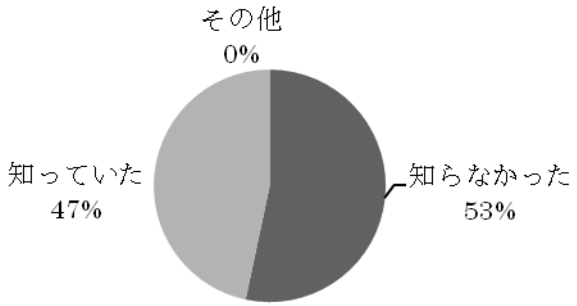
森林保全活動を行ってみて

●アンケート調査

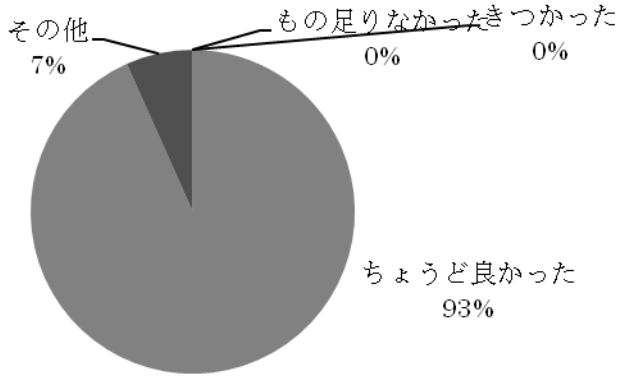
質問１　参加の動機は？



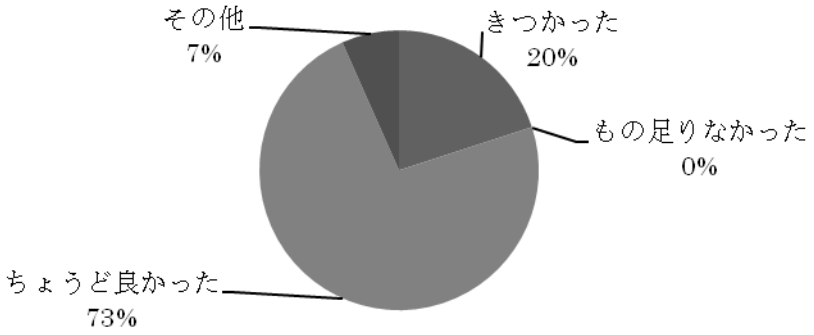
質問２．森の保全に木を使うことが役立つと知っていましたか？



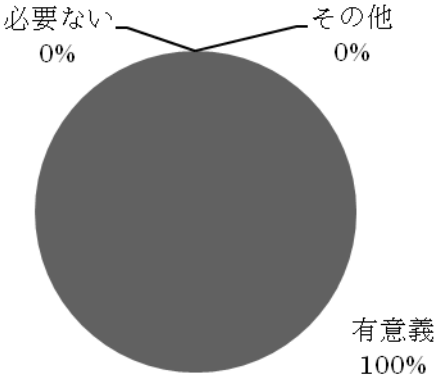
質問３　今回の作業について、時間はどうでしたか？



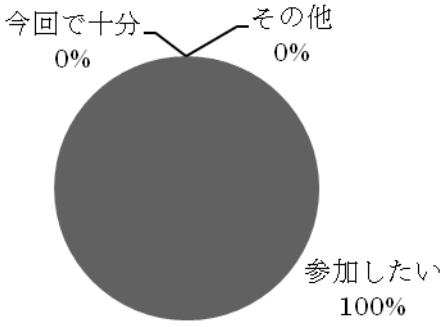
質問４　今回の作業について、きつかったですか？



質問５　ときがわ町の人たちとの交流の感想は？



質問６　また参加したいですか？



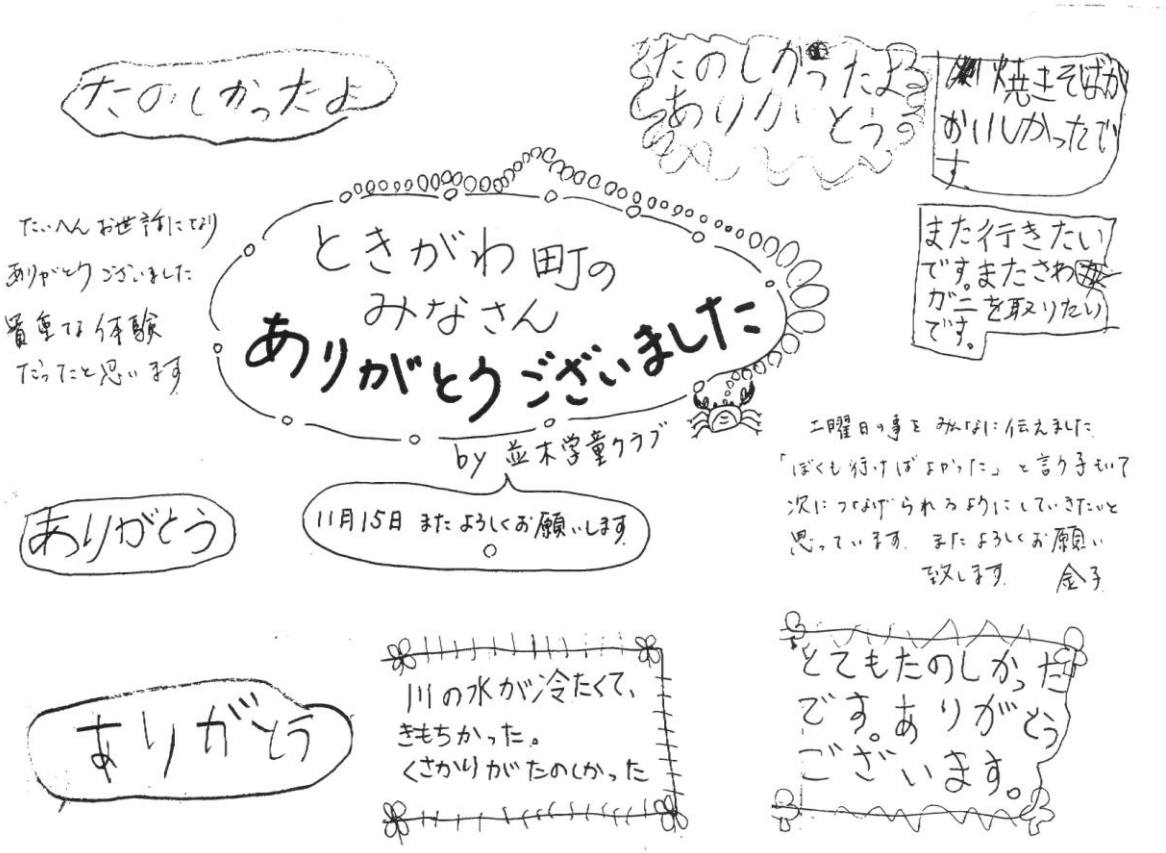
参加者の声

「森にふれて、床を張って」 子どもたちから、親から

◇子どもたちから

○木を植えたのはやったけど、あれがあんな風（学童の床）になると思わなかった。きれいでしたよ。
○気持ちくてお母さんもよろこんでます。ありがとうございます。
○段もないし、ふつうに歩けるから楽。
○段が高くなった。びっくりした。
○床張り体験のとき楽しかった。
○きれいになってうれしかった。いいにおい　うれしかった。
○段が高くなったからびっくりした。
○ドリルが楽しかった。

●子供たちから送られてきた寄せ書き



◇お父さんから、お母さんから

●森林保全活動に参加して

○子どもたちにも大人にも良い体験だった。山が必要だと思ったが、簡単でないこともわかった。間伐の時の木が倒れる音を聞くと生きていると感じました。

○50 年、100 年のスパンで森ができていることを実感した。森の香り、木が倒れる時の音、育った時間などを実際に感じて、これらの木が学童の床になると思うと期待に胸がふくらみます。

○家族で参加して、森を感じ、体感して、テレビで見て知るのと実際に感じるのでは大きく違いました。たぶん、この森で伐った杉を張った床は愛おしいでしょう。

○実家が帯広で緑豊かなところでした。山菜とりが好きで山菜のレストランをやっていました。その頃を思い出し、昔懐かしさを感じました。今は官舎に住んでいるので、国産の店を見つけて、身近でやり易いところから始めてみたいと思いました。例えば、ときがわ町の店ならどこ店に行けばよいとか、日本のゴミのこととか、森のこととか、日本の割りばしを使うことなど。

○木を無駄にしてはいけない、ということを感じました。

●床張りワークショップに参加して

○松井学童クラブで杉の床にはりかえて、明るくなりました。子供は寝転がったり、自然のものはすごい感じです。ぬか袋で掃除しています。

○自宅にもほしいと思うくらい良いです。（うらやましいし・・・）初めての作業を見るのも面白かったです。子供たちが熱中してやっていて良い体験だったと、実感です。大工さんの技術に親子ともに関心してしまいました。お仕事拝見という意味でも良い体験だったと思います。

○床がきれになり気持ちいいです。子供たちの方が張り切って作業しているのは見ていて頼もしかったです。

○私自身は、大工作業はとても苦手で実際ネジをドリルでとめる作業を体験しました。正直難しかったです。見るのとやるのとはだいぶ違うものですね。息子は、最初「やらない」と言っていましたが、友達のリードにより、どんどんチャレンジしてだいぶ慣れてきたようでした。親子共々貴重な体験ができました。職人の方々にも感謝しています。

今後の展望

森とまちを結ぶために

◇平成20年度の活動をふりかえって

すぎんこプロジェクトは、本会の市民活動支援事業の柱の一つとして位置づける事業で、今後継続的に実施していきたいと考えています。このため、平成 19 年度に構想作成と関係機関との調整など準備作業を行いました。本構想に沿って、平成 20 年度及び平成 21 年度はプログラムの原型をつくる期間と位置付けています。

今回、全労済の助成事業を受け実験事業として実施することによって、プログラムの原型が見えてきました。プログラムの目的に対する参加者の理解度や森林保全活動や床張りワークショップの満足度も高いことが判明しました。

また、専門家として協力する大工等の専門会員の人たちも、参加者から直接感謝や技術への賞賛の言葉をもらい、職業への誇りをあらたに感じる機会となったことは、予期せぬ成果でした。

◇今後の展望

平成 21 年度は、平成 20 年度に引き続き原型づくりの期間と考えています。

今年度に実施した実験事業をもとにプログラムを改善し、平成 21 年度は対象を所沢市の他の児童クラブ（所沢には 34 の児童クラブがある）に拡げるとともに、こうした活動を拡大するためにはどうしたらよいか、関係者との意見交換をするとともに、埼玉県木づかい運動の一環としての展開の可能性も探りたいと存じます。

森に緑を、住まいに木を

電話による無料住まいの相談を行っています。木の家に関すること、お気軽にお問合せください。

http://www.kinoie.org　　mail　office@kinoie.org
問い合せ：ＮＰＯ法人木の家だいすきの会事務局
東京事務所　03-5261-0951　所沢事務所　042-926-6045